

法話

近づく秋のお彼岸

暑い寒いの煩惱も

彼岸に至るまでのこと

清胤祐子師

広島県正覚寺衆徒

彼岸は「彼の岸」

9月の風を感じる頃になりました。皆さまお元気ですか。今年もおかげさまで、お彼岸が近づいてきました。お彼岸が、いつも彼岸花です。彼岸花は、毎年忘れずにお彼岸の頃になると、あんなにも美しい花を突然、咲かせてくれるのでしょうか。まるで仏さまのおつかいのように私は感じます。

彼岸花の別名はたくさんあります。まずは「葉見ず花見ず」。面白い響きです。普通の植物は、はじめに小さな芽を出し、葉を茂らせ、つぼみをつけ、そして咲くのでしようが、彼岸花は突然、花芽だけをいきなり伸ばしてパッと咲きます。まるで夜空に打ちあがる花火のように、私たちの心にお彼岸を知らせます。

次に「天蓋花」という別名もあります。天蓋とは、お寺の本堂のお内陣に

「仏天蓋」「人天蓋」がありますが、天蓋からつるされた美しい莊嚴(おかげり)のことです。天蓋花とは、まさにお浄土からやってきた花というイメージですが、相反する「地獄花」という別名もあるのです。

それは、球根に毒があり、仏さまにお供えできないという息味なので、土葬が普通だった時代には、ご遺体を獣にあらされないようにお墓の周りに植えたのだそうです。お彼岸にはお墓参りにも訪れませんが、お墓近くに咲く彼岸花は決して雑草ではなく、ご先祖のどなたかが心をこめて植えてくださったに違いありません。

また、水戸のご老公、黄門さまは、「物事は表裏一体、毒というのは裏返せば薬、ならば彼岸花の球根をすりおろして痛いとこに湿布しなさい」と、水戸藩にお触れを出したことも有名です。

まだまだ別名はたくさんありますが、「暑さ寒さも彼岸まで」という誰でもご存じの言葉も、ご一緒にあじわってみましょう。

この言葉を私たちが仏教徒として受け止める時、単に過ぎやすくなった気温のことだけではなく、暑いとか寒い

とか、好きとか嫌いとか、おいしいとかまずいとか、尽きることのないこの煩惱も、此の岸(彼岸)でのこと。お念仏とともに彼岸(彼岸、浄土)に参らせていただいたあかつきには、いつも平等心に満ち満ちた仏さまにならせていただくのだよとの弥陀のよび声と受け止めたものです。

お浄土にかえる

本願力にあひぬれば
むなしくすぐるひとぞなき
功徳の宝海みちみちて
煩惱の濁水へだてなし
(浄土真宗聖典より)

本願力を信ずるものは、南無阿弥陀仏の広大な功徳に恵まれるから、煩惱を抱えながら、もはや再び迷いの生死を繰り返すことはない、と親鸞さまはおっしゃいます。

お寺に嫁いで30年、今の私はやっと小さな声でも「はい」と返事をさせていただける身にお育てをいただきました。

そして「死んだら終わり」ではなく、必ずや西方浄土にや祖父母、そしてどんな方とも仏さま同士で再会できることが楽しみでなりません。

今年のお彼岸の中日にも、

きつと彼岸花がたくさん咲いてくれるなかで、太陽が真西に沈んでいくことでしよう。美しい夕日が目に浮かびます。私の悲喜もごもの人生も、仏さまに願われたお浄土への確かな歩みであることを知らされた時、思わず感謝のお念仏がこぼれます。

「皆土(浄土)に還るは
哀し あたたかし」

この言葉は私の祖母がお墓の裏側に彫り残した句です。祖母は終戦直前、朝鮮半島で学校の校長に任命されましたが、敗戦のために命からがら引き上げてきました。しばらくは教師もできませんでした。が、その後、お寺の幼稚園で園長さんをさせていただいたおかげで、思い難くしてご法義に遇えました。

いつも訪ねて行くたびに、「ようこそ、ようこそ」と抱きしめてくれたことを思い出します。少し前に、この祖母らのお墓が墓じまいをされることを聞き、びっくりしてお寺に引き取りました。今は墓苑の入り口の句碑として皆さまを迎えてくれます。

「みんなお浄土にかえらせていただくことは、残された者には哀しいけれど、それはとてもあたたかい慈悲に包まれることですよ」と。

教誓寺

法要のお知らせ

新型コロナウイルスの規制が撤廃され、外を歩く人達のマスク着用率も随分低くなった様に見受けられます。

今年の教誓寺の秋の法要は、コロナ前と同様にお勤めさせていただこうと思えます。

秋期彼岸会法要

9月23日(土) **秋分の日**
○法要 午後2時より
ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。

御彼岸の期間は
9月20日(水)～26日(火)です。

報恩講法要

報恩講は、宗祖親鸞聖人のご恩に感謝する法要で、浄土真宗門徒にとって最も大切な行事です。
本山で1月16日に「御正忌報恩講」が勤まりま

すが、末寺ではそれまでにお勤めいたします。ぜひお参りください。

令和5年10月29日(日)

○法要 午後一時より
○法話 白川淳敬師

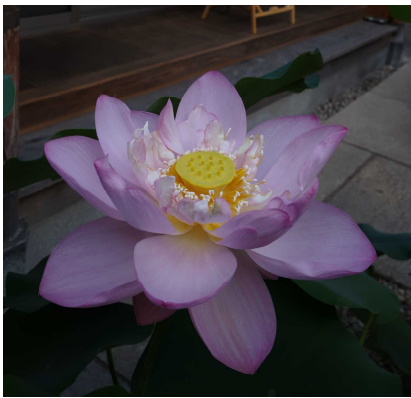
○腹話術
○お参りの時には

門徒式章をご着用下さい。
○御齋(お食事)を再開します。

以前より種類を減じて

て提供させて頂きます。用意は、午前11時頃から出来ますので、法要開始より早めにいらして召し上がって下さい。

○来年の浄土真宗カレンダーを差し上げます。教誓寺の生き物蓮の開花



今年、7月22日に咲き始め、4日目に散りました。二輪目を期待しましたが叶いませんでした。ほんの短期間で早朝だけでしたが、丹精したご褒美として、その上品な香りと共に楽しませて貰いました。



お寺の敷地内では、昔からの生き物がひっそりと暮らしてきましたが、最近になって異変がありました。何年にもわたって共生してきた「ヒキガエル」が姿を消してしまいました。メダカの鉢も被害を受け、夜だけ監視カメラを仕掛けました。そして判明したのが、左の写真の「特定外来生物」の「アライグマ」でした。これ以降メダカの防護網を

は遣っていません。被害に

住職より

長く暑すぎる夏も、そろそろ終わってくれるのではと、少しの変化も見逃さないようにと過ごしています。皆様は、この夏をご無事にお過ごしになりましたでしょうか。

ここ3年のコロナ禍の行事は、縮小ばかりでしたので、ご参詣の方々も大変に少なく、とても寂しく過ごしてまいりました。感染症の世界的流行も収まり、世間も元に戻ろうと色々な活動が盛んに行われています。

社会がコロナ禍の後遺症から復活するのには、まだまだ時間が必要でしょうが、報恩講やお墓参りなど、家族の皆様でお出かけ頂けたら、大変嬉しく思います。

教誓寺維持会費について

本年度も維持会費ご納入有り難うございます。これからの方も早めにお願ひ致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-10073
東京都港区三田 一十二-1-1
〇三(三四五)二二九九
kyousei.j@js4.so-net.ne.jp